

令和7年12月8日

国立大学法人鳥取大学が
次世代がん治療用ワクシニアウイルスの実用化にむけ
台湾の TFBS Bioscience とウイルス製造の委託契約締結

このたび鳥取大学は、本学医学部中村貴史教授らが創薬した次世代がん治療用ワクシニアウイルス FUVAC121 の今後の開発・事業化による実用化に向け、台湾の TFBS Bioscience, Inc.と、同薬の製造委託に関する契約を締結致します。本委託は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の支援のもと実施するものであり、今後の GMP 準拠の製剤製造および治験薬製造へ向けた重要な基盤となります。

※GMP(Good Manufacturing Practice):国際的な医薬品等の適正製造基準

つきましては、TFBS Bioscience 関係者来学の上、契約署名式を下記のとおり開催致します。

記

1. 日 時 : 令和7年12月 22日(月)13 時 45 分～14 時 30 分(予定)
※同日 13 時 00 分～13 時 45 分には、本研究成果に関する記者説明会を行います。
詳細につきましては、別添「11 月 28 日付け医学部プレスリリース」をご覧ください。
2. 場 所 : 鳥取大学鳥取キャンパス Tottori uniQ2 階スペース C
3. 出席者 :
【鳥取大学関係者】
 - ・原田 省 学長
 - ・景山 誠二 理事(研究・国際交流担当)
 - ・中村 貴史 教授(医学部医学科)
 - ・遠藤 佑輔 教授(研究推進機構 副機構長)
【TFBS Bioscience 関係者】
 - ・阮 大同(Ta-Tung Yuan, Ph.D.) Chairman & CEO
 - ・羅 紹華(Shao-Hua Lo) Director, Business Development
 - ・満尾 裕 TFBS Bioscience 合同会社 事業開発部長

4. 内 容 :

鳥取大学医学部中村貴史教授らが創薬した次世代がん治療用ワクシニアウイルス FUVAC121 は、投与部位だけでなく遠隔腫瘍も完全退縮させる極めて高い治療効果と免疫チェックポイント阻害薬抵抗性腫瘍に対する感受性回復作用などの革新的作用機序を持ちます。このたびの TFBS Bioscience との連携は、アカデミアにおいて最大の課題である製剤製造に大きく寄与するものであり、非臨床試験から臨床試験への展開に向けた開発が大きく前進することが期待されます。

【研究支援】

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

事業名:「再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム

(再生・細胞医療・遺伝子治療研究開発課題(非臨床 PoC 取得研究課題))」

研究題目:「難治性がんに対する次世代ウイルス療法の研究開発」(JP23bm1223018)

5. 本件お問い合わせ先

【本学での研究に関すること】

鳥取大学医学部医学科 ゲノム再生医学講座ゲノム医療学分野

教授 中村貴史(なかむらたかふみ)

Tel:0859-38-7550

E-mail:taka@tottori-u.ac.jp

【TFBS Bioscience に関すること】

TFBS Bioscience 合同会社

事業開発部長 満尾 裕(みつおゆたか)

E-mail:service@tfbsbio.com

【AMED 事業に関すること】

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

再生・細胞医療・遺伝子治療事業部 再生医療研究開発課 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム担当

E-mail:saisei-poc@amed.go.jp

■取材をされる場合は、下記へ12月 19 日(金)までに事前にご連絡願います。

担当:鳥取大学広報・基金室(総務企画課広報企画係)

電話:0857-31-5550

FAX:0857-31-5018

Mail:toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp